

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和5年第15週の発生動向

トピックス

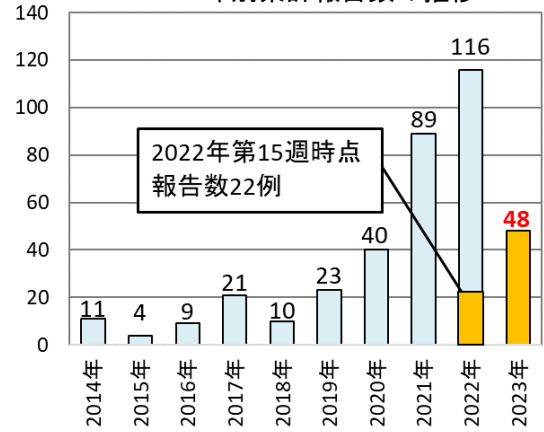
・**梅毒**(全数報告の感染症)の報告数が昨年と比べて多くなっている。診断週による累積報告数は48例と、1999年以降最も多くなった前年(116例)の第15週時点(22例)を超える報告数となった。

性別は男性が27例、女性が21例で、年齢群別では、20歳代から30歳代が全体の約6割を占めている。また、保健所別では宮崎市保健所管内からの報告が最も多く、36例となっている。

【梅毒】2023年(第1週~第15週)年齢別報告数

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
6	16	13	8	3	2

【梅毒】診断週による
年別累計報告数の推移



※2023年は第1週~第15週まで

・**新型コロナウイルス感染症**(新型インフルエンザ等感染症)の報告が244例あり、先週(309例)の約0.8倍であった。2023年の累積報告数は56,136例となった。※詳細は宮崎県新型コロナウイルス感染症特設サイトを御覧ください。

全数報告の感染症 (15週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。3類感染症：報告なし。

4類感染症：報告なし。5類感染症：梅毒4例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	60歳代	男	無症状病原体保有者	なし
		都城	80歳代	男	無症状病原体保有者	なし
5類	梅毒	宮崎市	30歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
			30歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
			40歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	扁平コンジローマ
			40歳代	女	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は621人(定点当たり16.8)で、前週比123%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は特になかった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

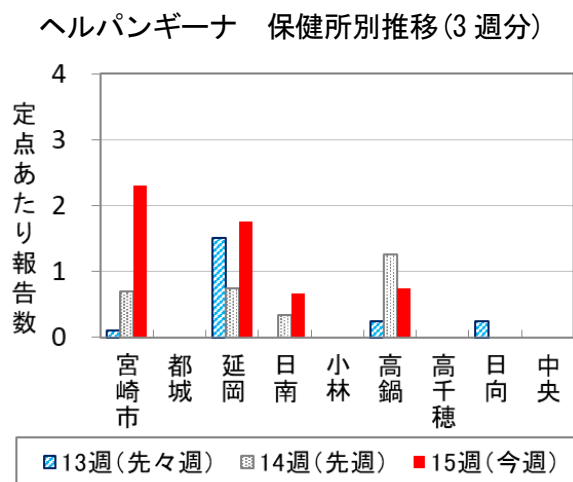
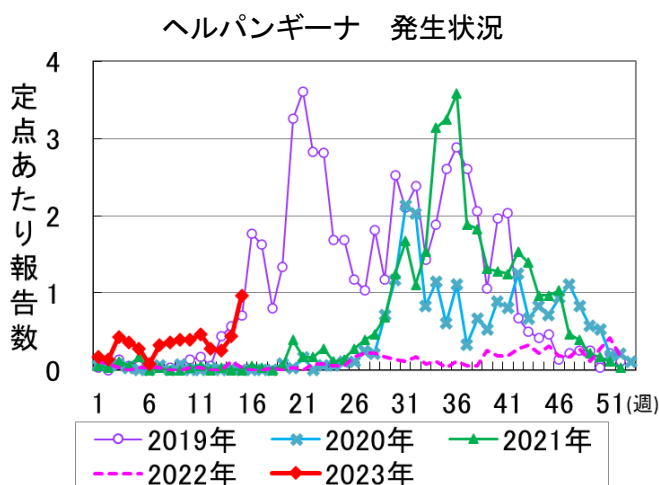
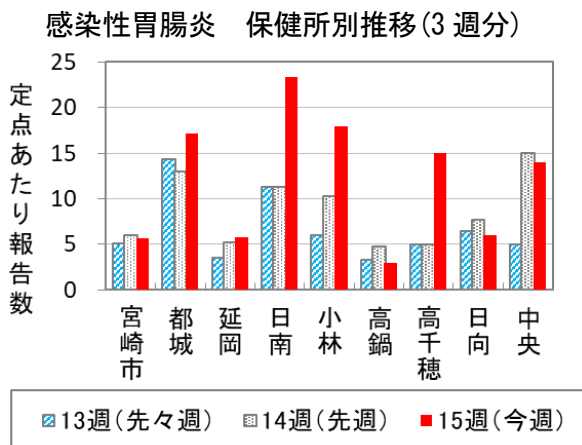
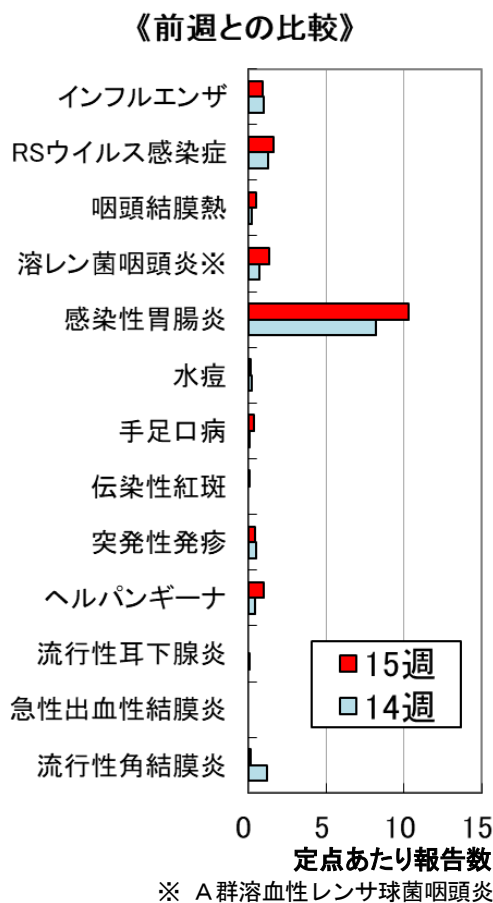
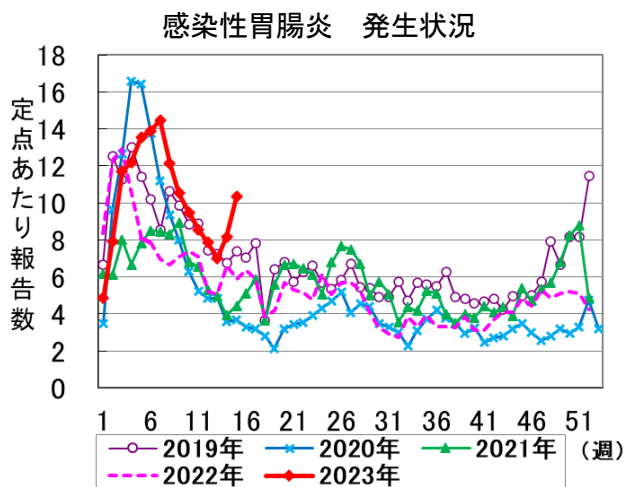
【感染性胃腸炎】

報告数は372人(10.3)で、前週比127%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(6.5)の約1.6倍であった。日南(23.3)、小林(18.0)、都城(17.2)保健所からの報告が多く、年齢群別は1歳から5歳が全体の約6割を占めた。

【ヘルパンギーナ】

報告数は35人(0.97)で、前週比219%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.23)の約4.2倍であった。宮崎市(2.30)、延岡(1.75)、高鍋(0.75)、日南(0.67)保健所からの報告で、年齢群別は1歳から3歳が全体の約8割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	なし
日南	感染性胃腸炎(23.3)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(9.0)

* 流行警報レベル開始基準値*
 ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8)
 ・感染性胃腸炎(20)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和5年4月17日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(OUT:HUT)	40歳代	女	2023.03.14	無症状	便	2023.03.27
EPEC(OUT:H40)	5～9歳	男	2023.03.20	発熱(37.1℃)、胃腸炎(嘔気、嘔吐)	便	2023.03.31
<i>Salmonella</i> Schleissheim(O4:b:-)	0～4歳	男	2023.03.24	発熱(38.8℃)、胃腸炎(嘔気、嘔吐)	便	2023.03.31
EPEC(OUT:HUT)	20歳代	男	2023.03.28	無症状	便	2023.04.06

○海外渡航歴のある0～4歳の男児から *S. Schleissheim* (O4:b:-) が分離された。サルモネラ属菌によって起こるサルモネラ症の主な症状は腹痛、下痢、発熱であり、下痢は水様性から血便や粘血便を呈することもある。*S. Schleissheim* は、2005年11月に長崎市でミドリガメが感染源と考えられる小児サルモネラ感染症事例が報告されている（IASR Vol. 27(2006. 3)）。厚生労働省が平成25年8月12日付けで「カメ等のハ虫類を原因とするサルモネラ症に係る注意喚起について」という通知を出しているため、参照されたい。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Influenza virus AH3	0～4歳	女	2023.02.28	インフルエンザA型感染症、40.0℃	咽頭ぬぐい液	2023.04.14
Influenza virus AH3	0～4歳	女	2023.02.16	インフルエンザA型感染症、39.0℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2023.04.13
Influenza virus AH3	0～4歳	女	2023.02.22	インフルエンザA型感染症、39.2℃	鼻咽頭ぬぐい液	2023.04.12
Influenza virus AH3	0～4歳	女	2023.03.06	インフルエンザA型感染症、40.0℃、上気道炎(咽頭炎、咽頭痛)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2023.04.12
Influenza virus AH3	0～4歳	女	2023.03.23	インフルエンザA型感染症、39.1℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2023.04.12
Influenza virus AH3	5～9歳	女	2023.03.13	インフルエンザA型感染症、38.9℃、上気道炎(咽頭痛)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2023.04.12
Influenza virus AH3	5～9歳	男	2023.02.20	インフルエンザA型感染症、39.2℃、上気道炎(咽頭炎)	鼻汁	2023.04.03
Influenza virus AH3	5～9歳	男	2023.03.16	インフルエンザA型感染症、38.9℃、胃腸炎(嘔気・嘔吐)	咽頭ぬぐい液	2023.04.12
Influenza virus AH3	5～9歳	女	2023.03.02	インフルエンザA型感染症、39.2℃、筋肉痛(関節炎)、咽頭炎	咽頭ぬぐい液	2023.04.12
Influenza virus AH3	10歳代	女	2023.03.07	インフルエンザA型感染症、38.6℃	咽頭ぬぐい液	2023.04.12
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.02.06	インフルエンザA型感染症、39.5℃、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2023.04.10
Influenza virus AH3	10歳代	男	2023.02.15	インフルエンザA型感染症、38.5℃、鼻水、咳、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.04.05
Influenza virus AH3	30歳代	男	2023.03.22	インフルエンザA型感染症、38.9℃、頭痛、上気道炎(咽頭痛)、鼻汁、倦怠感、悪寒、めまい	鼻咽頭ぬぐい液	2023.04.12
Influenza virus AH3	40歳代	女	2023.03.14	インフルエンザA型感染症、38.9℃、関節痛、咳、鼻水、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.04.12

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Influenza virus B (Victoria lineage)	10歳代	男	2023.02.20	インフルエンザB型感染症、38.5℃、筋肉痛、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2023.04.05
Influenza virus B (Victoria lineage)	10歳代	男	2023.02.20	インフルエンザB型感染症、38.3℃、上気道炎(咽頭痛)、咳、倦怠感	鼻咽頭ぬぐい液	2023.04.07
Coxsackievirus A9	0~4歳	女	2023.03.02	不明熱、ウイルス感染症、39.9℃、軽度鼻汁	気管吸引液	2023.04.05

○発熱等の症状を呈する16名からインフルエンザウイルス感染症が分離・検出された。今シーズン、当所では、Influenza virus AH3のみが分離・検出されてきたが、今回、Influenza virus B(Victoria lineage)が2件分離された。

📊 全国 2023 年第 14 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	175 例			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	16 例	腸チフス	1 例	
4類感染症	E型肝炎	5 例	A型肝炎	1 例	サル痘 10 例
	重症熱性血小板減少症候群	3 例	つつが虫病	2 例	デング熱 2 例
	日本紅斑熱	2 例	レジオネラ症	21 例	
5類感染症	アメーバ赤痢	9 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 12 例
	急性弛緩性麻痺	1 例	急性脳炎	5 例	クロイツフェルト・ヤコブ病 4 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7 例	後天性免疫不全症候群	10 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 8 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	22 例	水痘(入院例)	5 例	梅毒 173 例
	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳 15 例
	風しん	1 例	麻しん	1 例	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 88%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症と水痘で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

インフルエンザの報告数は13,580人(2.8)で前週比68%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.83)の約3.4倍であった、新潟県(14.1)、山形県(11.1)、青森県(7.0)からの報告が多く、年齢群別では10歳未満が全体の約6割を占めた。

RSウイルス感染症の報告数は1,662人(0.53)で前週比110%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.39)の約1.4倍であった。鹿児島県(2.4)、福井県(1.7)、佐賀県、北海道(1.6)からの報告が多く、年齢群別では3歳以下が全体の約9割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2023年3月>

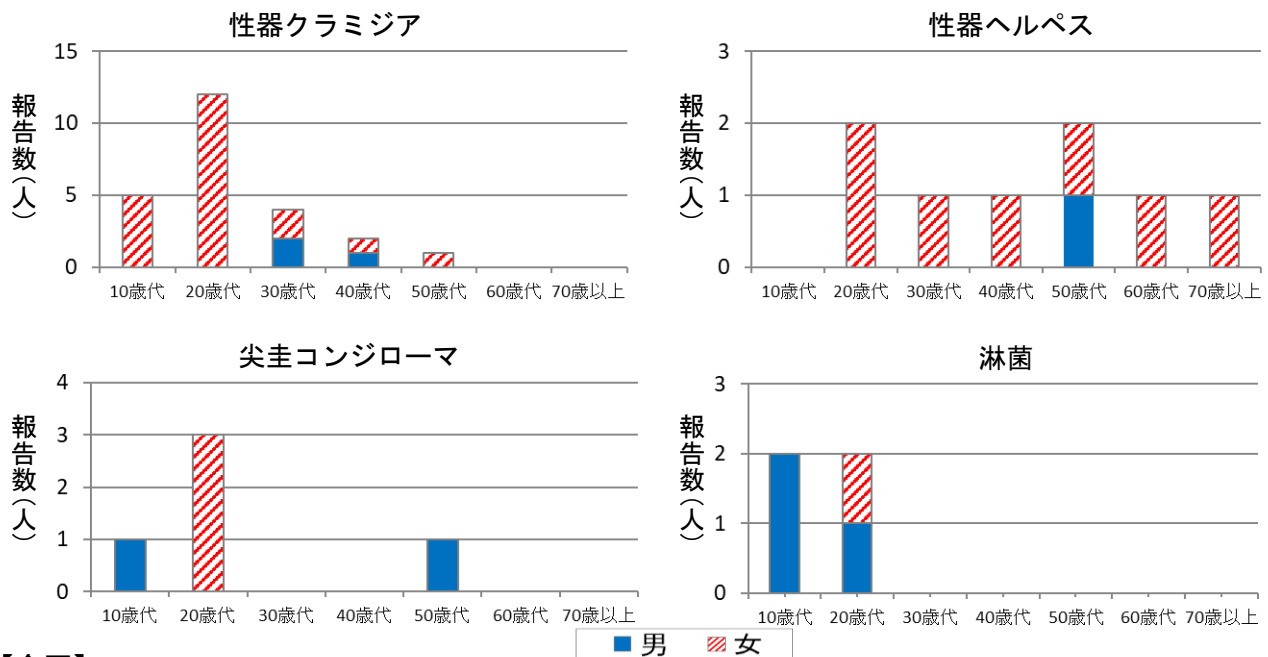
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は41人(3.2)で、前月比152%と増加した。また、昨年3月(3.2)と同程度であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数24人(1.9)で、前月の約1.6倍、昨年3月の約0.8倍であった。20歳代が全体の半数を占めた。(男性3人・女性21人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数8人(0.62)で、前月の約1.1倍、昨年3月の2.0倍であった。(男性1人・女性7人)
- 尖圭コンジローマ：報告数5人(0.38)で、前月及び昨年3月の5.0倍であった。(男性2人・女性3人)
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月と同率、昨年3月の約0.7倍であった。(男性3人・女性1人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,855人(5.0)で、前月比115%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,603人(2.7)で前月比110%、性器ヘルペスウイルス感染症818人(0.84)で前月比124%、尖圭コンジローマ577人(0.59)で前月比109%、淋菌感染症857人(0.88)で前月比126%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は17人(2.4)で、前月比71%と減少した。また、昨年3月(2.7)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月の約0.7倍、昨年3月の約0.9倍であった。70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,276人(2.7)で、前月比100%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,207人(2.6)で前月比101%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症61人(0.13)で前月比87%、薬剤耐性緑膿菌感染症8人(0.02)で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2023年 第15週(04月10日～04月16日)

疾病名		第14週	第15週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	56	53	32		9	2		1		6	3
	定点当り	0.97	0.91	2.00	0.00	1.29	0.40	0.00	0.17	0.00	1.00	1.50
RSウイルス 感染症	報告数	45	59	12	13	3	10	1	3		9	8
	定点当り	1.25	1.64	1.20	2.17	0.75	3.33	0.33	0.75	0.00	2.25	8.00
咽頭結膜熱	報告数	9	19	11	2	2	1	1			2	
	定点当り	0.25	0.53	1.10	0.33	0.50	0.33	0.33	0.00	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	25	47	25	9	2	1				1	9
	定点当り	0.69	1.31	2.50	1.50	0.50	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	9.00
感染性胃腸炎	報告数	294	372	57	103	23	70	54	12	15	24	14
	定点当り	8.17	10.33	5.70	17.17	5.75	23.33	18.00	3.00	15.00	6.00	14.00
水痘	報告数	7	5	3	2							
	定点当り	0.19	0.14	0.30	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	1	12	3	3	1	1			1	3	
	定点当り	0.03	0.33	0.30	0.50	0.25	0.33	0.00	0.00	1.00	0.75	0.00
伝染性紅斑	報告数		3	2		1						
	定点当り	0.00	0.08	0.20	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	17	15	5	3	1	2		2			2
	定点当り	0.47	0.42	0.50	0.50	0.25	0.67	0.00	0.50	0.00	0.00	2.00
ヘルパンギーナ	報告数	16	35	23		7	2		3			
	定点当り	0.44	0.97	2.30	0.00	1.75	0.67	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	3										
	定点当り	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	7	1			1						
	定点当り	1.17	0.17	0.00	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2023年 第1週～15週)

2類感染症	結核	35例(2)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例	腸チフス	1例	
	4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	3例	つつが虫病	9例
5類感染症				レジオネラ症	1例
		アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	2例
		急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	1例
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群	1例
		水痘(入院例)	1例	梅毒	52例(4)
新型インフルエンザ 等感染症	百日咳	3例		播種性クリプトコックス症	1例
	新型コロナウイルス感染症	56136例(244)			

()内は今週届出分、再掲